

鉄道ピクトリアル

2016年9月号 Vol.66 No.9 通巻No.921

<特集> JR205系電車

■表 紙 「むさしの」号運用に就く武藏野線の205系 河原慶明

八王子—豊田 2016-5-29

■グラフ

205系は今 (1~8ページ)

加藤和毅・山中 茂・河原慶明・井上英樹・早川昭文
久保田健一・浜村正弘・金子 聰・岩永伸一・池添智和
渡邊裕太郎・太田正行・富村哲男・森本裕之・和田康之
眼目佳秀・白井 剛・編集部

205系の軌跡—思い出の場面から (92~93ページ)

太田正行・三ッ谷政久・山口 徹
杉崎健一・真島茂幸・佐藤雅孝

ジャカルタで活躍する205系 (94~95ページ) 井上 幸彦

*

関西の205系 構成: 編集部 32

205系電車 形式集 構成・解説: 平石大貴 34

*

Pictorial Color Gallery 山陽電鉄 垂水散歩 山口 徹 89

[JR西日本323系/JR東日本HB-E300系「リゾートしらかみ」
撫編成/JR東海キヤ95系 DR2機器更新/東武鉄道200系
208編成が台鉄自強号「普悠瑪」デザインに/JR東日本
「TRAIN SUITE 四季島」内装モックアップ公開ほか]

96~99

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西) 100

EF66-0代は今 今泉 博之 108

サバ州立鉄道キハ8502試運転列車 乗車記 斎藤 幹雄 110

バンコク パープルライン 今津 直久 112

■本文

今月の話題: JR205系電車 編集部 9

JR東日本・JR西日本 205系通勤形直流電車の現況 日向 旭 10

103系からE233系まで 埼京線の車両変遷 芳田あきら・前納浩一 48

ジャカルタで活躍する205系 井上 幸彦 70

205系唯一の私鉄譲渡車 富士急行6000系・6500系電車の概略

*

..... 平石 大貴 83

[国鉄・JR205系電車 主要車歴表 作成: 編集部・日向 旭 118]

*

鉄道の話題 編集部 47

書評(619)『行商列車—〈カンカン部隊〉を追いかけて』 三木 理史 88

バンコクの新しい都市鉄道 パープルラインに乗る 今津 直久 113

絵葉書のなかの国鉄ローカル線(19) 小浜線 白土 貞夫 116

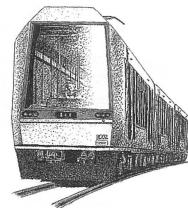
6月のメモ帳 135

読者短信・情報ファイル 136

後部車から 140

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット: 山本茂樹

今月の話題

JR205系電車

国鉄時代、101系に代わる経済設計の通勤形電車として1963(昭和38)年に103系電車が登場し、その後20年にわたり量産が続いた。103系は1970年代から80年代にかけて大都市圏の通勤輸送を担う代表形式となつたが、鉄道車両技術の進歩を受けて、次世代を担う通勤形電車が検討され、1979(昭和54)年に電機子チョッパ制御の201系が登場、中央線でデビューした。しかし、201系は初期投資額などが課題となり、当時の国鉄では負担が大きく、結局は主に中央線などへの投入にとどまり、代わって制御機器に界磁添加励磁方式を採用した205系が103系の代替となる新たな通勤形電車として1985(昭和60)年に新製され、山手線に就役したのである。国鉄通勤形電車初の軽量ステンレス車体、界磁添加励磁制御、ボルスタレス台車の採用などが新製当時の注目点であった。

205系は量産タイプで側窓が1段下降式となり、イメージチェンジされ、山手線の103系を掃討し、東海道・山陽緩行にも投入された。さらに、JR発足以降も増備が続けられ、JR東日本で横浜線、南武線、埼京線、京葉線、武蔵野線、京浜東北線など、さらにJR西日本で阪和線に新製投入され、2大都市圏で大きな存在感を誇る通勤形電車へと展開された。1994(平成6)年までの新製・増備両数は1,461両である。1990年代後半以降はJR各社もVVVFインバータ制御の時代に入り、209系を皮切りに新形式通勤形が続々と投入され、205系は主力通勤車の座を明け渡していくようになり、今日一部は廃車、あるいは地方線区への転用が目立つようになった。また、日本製通勤車の譲渡が相次ぐインドネシア・ジャカルタで都市圏輸送の担い手として第2の活躍が始めている車両も増加し、今後が注目される。

TETSUDŌ TOSHO KANKOKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan